2022 年度 日本看護科学学会若手の会主催

第3回北関東エリア検討会

2022 年 8 月 20 日、日本看護科学学会若手の会主催「第 3 回北関東エリア検討会」がオンラインにて開催されました。新型コロナウイルス感染症の拡大により、学会や研修会のオンライン開催で、若手の交流が減っています。また、研究活動や教育にも影響をおよぼしています。そこで、参加者の交流からネットワークを構築し、研究活動推進の新たなきっかけを得ることおよびワーク・ライフ・バランスの工夫を共有することを目的とし、本企画をしました。

【検討会のテーマ】 研究/教育/実践活動とワーク・ライフ・バランスについて語ろう!

検討会の参加者は、16 人(北関東 9 人、北関東以外 6 人、海外 1 人)で、自由に意見交換できることを重視しました。全体での自己紹介を行い、2 人のファシリテーターを配置した 2 つのグループに分け、35 分間の意見交換を 2 回実施し、最後に共有・まとめを行いました。具体的には、①ワーク・ライフ・バランスの工夫、②研究活動の実際を参加者の方々が自由に選択できる機会を作りました。

意見交換では、教育や臨床を行いながら研究をしていくこと、大学教員の実際の生活リズムの紹介や実際の育児と仕事の両立方法などの意見交換が行われました。また、共同研究者になってほしいと思えた方々もいらっしゃり、研究の輪が広がる機会となりました。終了後にはフリータイムの時間を持ち、検討会の感想をフランクに話し、楽しく笑いを交えた深い交流が図れました。今年度は、後期に第4回北関東エリア検討会を企画しています。これからも、エリアコーディネーターとして、若手の皆様の交流の機会を持っていきたいと考えています。



北関東エリアコーディネーター

金澤悠喜·荻原弘幸·小西美樹·竹山美穂·永井智子·松本光寛

参加者アンケートからのコメント(一部を改訂して抜粋)

- 皆さん頑張っていらっしゃるんだなあと自分自身を振り返るよい機会となりました。
- ・ まだ研究や教育の分野に入ったばかりで、分からないことや不安が多く、孤独感のようなものもあったため、思い切って参加して良かったです。
- ・ 学生のグループワークの配置に関して、レディネス(主に知識と実践能力)に配慮して教育的効果を考えて配置しているという、他の教員の工夫を聞けて共感できました。
- ・ 皆さんが困っていること共有出来て良かったです。教育に研究に今後も頑張っていこうと意欲的になれました。
- 研究の活動の共有に関してはもっと早い時期に聞きたかった。
- ・ 自分のキャリアについて考えていかないといけないと思いました。あれもこれもというのは、かなり難しいので、比重や優先順位 を決めて取り組んでいこうと思いました。
- 効率的、効果的な教育を考えることが教育に必要以上の時間をかけないという方法があるのだということを学べました。